

地元のフリーランス主婦が大活躍

【福島市観光ノート】

コロナ禍でも大成長、年間 200 万 PV の観光メディアを支える

「地域愛」と「多様な働き方ができる仕組み」

2020 年 7 月にスタートした、観光 Web メディア「福島市観光ノート」(<https://www.f-kankou.jp/> 運営：DMO 福島市観光コンベンション協会) は、2 年目となる 2021 年度の年間ページビューが 200 万を突破しました。同サイトは福島市の観光情報や市内事業者の紹介などを取材ベースで月に 7～8 本の記事を配信する更新型ホームページ。コロナによる自粛が続いた上期待のオリパラも無観客となり、観光をテーマにしたコンテンツは打撃を受けたにもかかわらず、前年を大きく上回る数値を出せた成長の影には、女性目線で記事のアイデアを出し合ってこまやかな取材を行った市民ライター、クリエイターの活躍がありました。

同サイトの編集部は編集長を含め全員が女性、子育てママが多く中には 3 人のお子さんがいる方も。福島市出身または転入者、U ターンなど背景はそれぞれですが、みな地域愛が人一倍強いことが共通しています。



前列左は YouTube チームの金澤千裕さん、編集長熊坂仁美（中央）、協会職員ガラール真紀。

後列 4 人が主婦ライター、左から齋藤幸子さん、木俣麻樹子さん、勝村亜沙美さん、鈴木亜紀子さん

<多様な働き方を後押しする仕組み>

それぞれ多様な背景や環境にある中、自分にあった働き方で活躍してもらうために、観光ノートでは様々な工夫を行っています。

①二段階の職位—フリーランスの場合、目指す収入を得るため積極的に関わる人、家庭や子育てと両立しながらできる範囲でやりたい人、副業として本業の傍ら時々仕事を受けたい人などに分かれるため、コンスタントに仕事をする「レギュラーライター」とミーティング参加の義務がなく依頼ベースの「準レギュラーライター」の制度に変更（現在レギュラーライター5名、準レギュラー4名）

②編集部はオンライン上でデジタルツールを駆使し、リアルで集まることなく納品までを完結させる。月一度の会議出席もその都度どちらかを選べる。

③仕事に人を当ててるのではなく、人に合わせてその得意分野の仕事を作る（例：元アナウンサーの方にレポーター動画のシリーズを追加）

＜ライターの例＞

▶3 人の男児を育てる福島市出身で郡山在住の木俣麻樹子（きだわらまきこ）さん（写真後列左から 2 番目）は、ベテランライターですが、取材の前日はいつも緊張すると言います。「取材先にアポを取っている以上、もし子ども病気になったらキャンセルをしなければならず、相手先に迷惑をかけてしまう。それが一番の懸念事項ですが、とにかく仕事楽しい」と語ります。

▶仙台からの移住者である勝村亜沙美さんは、介護職からの転身。動画編集未経験ながら、YouTube 動画の編集を行うようになって仕事を覚え、観光ノートで制作した「ももりんサイクル」の使い方動画が本市交通課の目にとまり、今では動画クリエイターとして福島市からの仕事もこなすなど活躍の場を広げています。

※その他、首都圏からの移住者や元 NHK アナの鈴木亜紀子さんなど、ライターはすべて取材可能ですので、お気軽にお問い合わせください。ぜひご取材にて女性活躍の応援の後押しを頂けましたらありがたく存じます。

■ライタープロフィール一覧 <https://www.f-kankou.jp/writer>



■このリリースに関する関連記事 <https://www.f-kankou.jp/pickup/11965>



《本件に関するお問合せ先》

DMO 一社 福島市観光コンベンション協会（福島市五月町 10-17 酪農会館 303）担当：熊坂、金澤
問合せ先：024-563-5553 090-8893-3742（熊坂携帯）090-7335-2431（金澤携帯）
E-mail：hitomi@socialmedialabs.jp